

夢への架け橋

～僕らの創る福祉の未来～

加世田常潤高校・生活福祉科

NEWS レター

第10号(2024.3.25)

「三年生に向けて」(文責:新留)

この一年間を通して学んだことは「努力」と「諦めない気持ち」です。学習をしていく上で最も必要な力として、「努力すること」があり、これからも必要になると考えています。また、何事にも最後まで諦めることなくやりきる気持ちがあることで投げやりにせず、自分の力を最大限発揮できると考えています。介護実習では、利用者の方と信頼関係を築き続ける必要があります。その際に利用者の方に関わることを諦めてしまうと良い介護にならないと思います。最後まで諦めず、利用者の方を知ろうと努力ができるようになりたいです。

三年生では、介護福祉士国家試験もあるため、合格するためにも勉強をたくさんする必要があります。その勉強も諦めてしまっては意味がありません。諦めない気持ちで最後まで努力し続けられるようになりたいです。高校生活の最後の一年を、良い介護福祉士になるためにどうしたらよいかを考え、行動ができる一年間にしていきたいです。

「自分のなりたい道に進む」(文責:水江)

2年生後半になり、私たちは進路について考えることが多くなりました。自分に合っている道に進みたい、介護実習を通して実習で学んだことを、実際に自分の仕事として活動していきたい…。一人ひとり様々な思いを持っています。中にはまだ就職したくないなど声が上がることもあります。しかし、私たちは進路を決めなければならないタイミングになっています。私現在は進学を希望しています。そのためには小論文や面接練習等様々なことを行う必要があります。挨拶の基礎基本、礼儀の基礎基本について一から先生方に教わり、取り組んでいきます。入学してからの2年半は今思うととても早く感じています。時間は止まってくれません。今自分の立場や状況を自覚していかなければなりません。3年生になったら進路決定の三者面談も控えています。3年生の前半には高校卒業後の進路が決まり、それぞれの将来の道がスタートしていきます。「自分が本当になりたいものは何なのか」「目指しているものは何なのか」、自分でしっかり考え次に向かって頑張っていきたいと思っています。



進路ガイダンスの様子

【編集後記】

5月1日に創刊した、「夢への架け橋」僕らの創る福祉の未来も、今年度創刊号を合わせて、十一号を発行する事ができました。全国の高校生の中で、福祉を学ぶ生徒はわずか数パーセントにも届きません。そんな福祉科で学ぶ高校生が福祉の学びの中で、地域との関わりを通して、利用者の方との関わりを通して、何をみて、何を感じているのか、その一端を見ていただくことが出来たことなら幸いです。福祉は、社会的に抑圧されている小さな声や声なき声に寄り添える力を持っています。その力は、小さいながらも自分の思いを届けようとする、誰かに届いたという経験をする、ことからスタートしていくものだと考えています。学級担任として、わずか、数百文字の原稿を書くために、何度も言葉を選んでいる姿を見てきました。次年度に控えている介護実習でも、どのような言葉なら、どのような思いなら相手に伝わるのか…。考えることを諦めず、最後まで自分と相手の心に寄り添って、くれることを期待しています。

(学級担任 岩川亮太)